

河川分科会河川整備基本方針検討小委員会報告

(天竜川、緑川水系)

●小委員会開催

- ・ 天竜川水系、緑川水系:3月6日、3月19日

●各水系に関する主な委員意見、質問とこれに対する対応、説明

○天竜川水系

(治水対策)

【意見】諏訪湖周辺は人口、経済活動が集中しており、守り方を考えておくことが必要ではないか。

【説明】31 の流入河川に対して、流出するのは釜口水門のみであるため、洪水時には諏訪湖の水位が上昇し、諏訪湖周辺や流入河川で浸水被害が発生する。このため、諏訪湖からの放流能力を高めるとともに、湖岸堤の整備や流入河川で堤防整備等を実施している。また、万が一浸水被害が発生した場合にも被害を最小化するために、リアルタイムで諏訪湖の映像情報を提供する等のソフト対策を実施する。

【意見】天竜川は非常に長い川で、上流と下流で洪水となる降雨パターンが異なるが、これを考慮した計画であることを記述すべき。

【対応】本文に記載することとした。

(総合的な土砂管理)

【意見】総合的な土砂管理は、治水や環境にとって非常に重要であるため、その考え方や目標について記述すべき。

【対応】本文に記載することとした。

○ 緑川水系

(河道計画)

【質問】加勢川で河道掘削を行うとのことだが、地下水に影響はないのか。

【説明】熊本地域の帯水層は第1、第2、第3に区分され、多孔質で透水性の高い阿蘇火砕流堆積物により形成されている第2帯水層が、熊本地域の主要な水道水源となっている。加勢川の河道掘削においては、第1帯水層は掘削標高より10m程度深い位置にあり、第2帯水層は40m程度深い位置にあることから、地下水への影響は小さいと考えている。しかしながら、万が一地下水が噴出した場合の影響を鑑み、今後、加勢川で河道掘削を行う場合には、掘削箇所周辺でボーリング調査等を検討するなど、地下水への影響を十分に調査する。

(水質)

【質問】緑川ダムでのアオコ発生要因と対策を教えてください。

【説明】緑川ダムでは植物プランクトンの異常繁殖が原因とみられるアオコの発生

が例年夏場に確認されている。貯水池流入水の栄養塩濃度が高いことに加え、夏場に水温躍層が形成され、表層水温が18℃を超えた時に、アオコが増殖しやすい状況となっている。平成17年から18年に、貯水池内を循環混合させる浅層曝気設備を2基設置するとともに、上流域の自治体では合併浄化槽の設置等による生活排水対策を実施している。

(総合的な土砂管理)

【意見】土砂供給の不足が干潟や沿岸域の環境に影響を与えていることが分かってきているので、土砂供給機能の解明に加え、解決策が求められていることや土砂供給を図ることを記述すべき。

【対応】本文に記載することとした。

河川整備基本方針検討小委員会名簿
天竜川、緑川水系

委員長	福岡捷二	中央大学研究開発機構教授
委員	綾日出教	(社)日本工業用水協会顧問
委員	池淵周一	京都大学名誉教授
委員	石島操	全国森林組合連合会代表理事専務
委員	入江登志男	(財)給水工事技術振興財団専務理事
委員	上河潔	日本製紙連合会常務理事
委員	岸井隆幸	日本大学理工学部教授
委員	楠田哲也	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授
委員	小池俊雄	東京大学大学院工学研究系社会基盤学専攻教授
委員	小松利光	九州大学大学院工学研究院教授
委員	坂本弘道	(社)日本水道工業団体連合会専務理事
委員	佐藤準	全国土地改良事業団体連合会専務理事
委員	佐藤慎司	東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授
委員	谷田一三	大阪府立大学大学院理学系研究科生物学専攻教授
委員	辻本哲郎	名古屋大学大学院工学研究科教授
委員	堤久	天竜川総合学習館教育担当指導員
委員	中川一	京都大学防災研究所流域災害研究センター教授
委員	濱崎勝	緑川の清流を取り戻す流域連絡会会長
委員	松田芳夫	中部電力(株)顧問

- 委員 虫 明 功 臣 福島大学理工学群共生システム理工学類教授
- 委員 森 誠 一 岐阜経済大学経済学部教授
- 委員 森 田 昌 史 (財)日本水土総合研究所理事長
- 委員 村 井 仁 長野県知事
(代理) 腰 原 愛 正 長野県副知事
小 平 重 登 長野県土木部河川課長
- 委員 石 川 嘉 延 静岡県知事
(代理) 鈴 木 光 好 静岡県河川砂防局河川企画室長
杉 保 聡 正 静岡県河川砂防局河川企画室専門監
- 委員 神 田 真 秋 愛知県知事
(代理) 富 岡 誠 司 愛知県建設部河川課長
大 河 内 益 夫 愛知県建設部河川課主幹
- 委員 潮 谷 義 子 熊本県知事
(代理) 松 永 卓 熊本県土木部河川課長